このゼミに注目！

中村 一成ゼミ

- 専門分野：日本経済史
- 演習テーマ：近現代日本の社会経済史

経営学部
経営学科
准教授
中村 一成

「いま」を知り、未来を見とおすために、過去を探る

中村(一)ゼミでは「近現代日本の社会経済史」をテーマとして研究をしています。過剰な情報が氾濫し変化も速い世の中の潮流のなかで、今日では脊椎反射的とでも呼ぶべき速度での情報処理能力が求められるようになっています。しかしそれだけでは、ともすれば目の前で生じる事象を「いま」だけの材料でもって判断・評価するような、近視眼的な思考態度に陥ってしまいます。過去の積み重ねの先端に「いま」があり、その延長線上に未来を見とおすことができる、そのような長い時間軸でものごとを考える訓練を本ゼミでは行っています。

とはいえ、何か特別なメソッドを用いているわけではありません。基本は文献の輪読という、いたってクラシカルな学びの方法です。全員が事前に共通の文献を熟読し論点を提示し合い、それらをめぐって意見を出し合う過程を通じて自分だけでは到達できなかった理解の高みに至る、ということを地道に繰り返していきます。まずは一人ひとりが孤独に文献と向き合うことが求められますが、その先では仲間とともにもう一段高いレベルの理解を目指す、という点にゼミでの輪読の意義があります。

このとき口うるさくゼミ生に求めていることは、論点を疑問の形式で、とりわけ「なぜ～なのか？」という形式で提示することです。「なに？」「いつ？」「どこで？」などといった疑問については、いまどきの大学生はすぐに「ググって」調べられます（その場合も依拠したWebサイトの信頼性をしつこく問い質しますが）。そうした調べればすぐ判明する事実を踏まえてもなお残される「なぜ？」を探る努力の積み重ねが、課題を発見するという汎用的な能力を涵養していきます。

また、歴史は時間軸を意識しながら学ぶものですが、同時にその時々における空間的な広がりを意識することも大切です。空間感覚を身に着ける機会として、本ゼミでは「日本経済史街歩きツアー」を実施しています。これまでに「東京駅編」「ミナト横浜編」「本郷・上野編」を実施してきましたが、実際に自分の足を使って歩いてみると、文献の字面を読んで分かったつもりになっていたことがらについて、空間的なスケールにおいてとらえ直す基準を獲得することができます。東京近辺には新たな発見をし得る街がたくさんありますし、いずれは少し遠出をして地方都市を歩くことを通じて、東京の街を相対化することにも取り組んでいきます。

学生からの一言コメント

このゼミでは、2年生から3年生までは一年間を通して日本経済史にまつわる文献の輪読をしています。輪読を通して、自分一人では理解のできない疑問について、ゼミのみんなで知識を出し合うことができます。もちろん、私たちゼミ生だけの知識では解決しない疑問もありますが、先生がヒントとなる知識を提示してくださったり、最終的に解説してくださったりするので、疑問を抱え続ける心配はありません。

今年度は時間割上できませんでしたが、昨年度までは2・3年生の合同ゼミを行っていたこともあり、より多くの疑問を消化することができました。4年生の卒論に関わる疑問を収集するのに、輪読はすごく充実した時間です。

経営学科3年
西村 陽菜